

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	沼津工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	機械工学科	夜・通信			15	15	7	
	電気電子工学科	夜・通信			13	13	7	
	電子制御工学科	夜・通信			14	14	7	
	制御情報工学科	夜・通信			24	24	7	
	物質工学科	夜・通信			13	13	7	
	専攻科 総合システム工学専攻	夜・通信			19	19	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=22&lang=ja

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	沼津工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

[https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/NewFolder/yakuinmeibo\(20200401\).pdf](https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/NewFolder/yakuinmeibo(20200401).pdf)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月1日～ 2024年3月31日	理事長
常勤	豊橋技術科学大 学理事・副学長	2020年4月1日～ 2022年3月31日	研究・産学連携 情報システム
非常勤	東京大学教授	2014年4月1日～ 2022年3月31日	男女共同参画推進
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	沼津工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>国立高専統一の Web シラバスシステムに基づき、統一の様式に則り、授業形態・到達目標・ルーブリック(成績評価基準表)・授業科目の概要や内容、方法、注意点・授業計画・評価割合を記載している。例年、前年12月～翌年1月にかけてシラバスを作成しており、作成完了後、年度初めの4月1日に国立高専が統一してインターネットにより公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=22&lang=ja
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>「沼津工業高等専門学校学則」、「沼津工業高等専門学校学業成績評価並びに進級・卒業認定等に関する規則」及び「沼津工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則」に則り、授業計画(シラバス)にてあらかじめ周知されている評価割合に基づき、厳格かつ適正に単位授与または履修認定を実施している。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本科では、客観的な指標としてGPAを導入している。</p> <p>GPAを算出するため、評語に応じたグレードポイント(以下「GP」という。)を定めており、(評語S及びAはGP4、評語BはGP2、評語CはGP1、評語DはGP0)以下の計算式により算出している(小数点以下第3位を四捨五入)。</p> <p>$GPA = (\text{履修科目のGP} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の総和} / \text{履修単位数(不合格科目を含む)の合計}$</p> <p>なお、外部修得科目等認定科目については、GPAの計算から除外している。</p> <p>専攻科では成績を、S(90点以上)、A(80点以上90点未満)、B(70点以上80点未満)、C(60点以上70点未満)及びD(60点未満)の5種の評語をもって表し、評語と評価点の相互換算を4点満点(S:4点、A:4点、B:2点、C:1点、D:0点)の評価点で表すことにより、成績分布把握を行っている。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>http://www.numazu-ct.ac.jp/wp-content/uploads/03campuslife/14handbook/R02handbook.pdf (P.97-P.103)</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【本科】

全課程を修了して 167 単位以上（一般科目 75 単位以上、専門科目 82 単位以上）を修得し、以下の能力を身につけた学生の卒業を認定する。

A 技術と自然や社会との関わりや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力。

B 環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に関する課題に数学、自然科学及び情報技術の知識を適用できる能力。

C 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のうち、いずれかの専門的知識を理解できる能力、及び工学的課題を解決するため、必要な情報やデータをハードウェア、ソフトウェアにより収集し、整理できる能力。

D 自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を正しく用いて、報告できる能力、及び自己の研究等に関する英語の記述や論文を 7 割程度理解でき、自己の研究成果等の概要を英語でわかりやすくまとめることができる能力。

E 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力及び自己の研究に関連する文献を調査・選択し、講読できる能力。

【専攻科】

以下の能力を身につけ、専攻科に 2 年以上在学し、所定の単位修得条件の下で合計 62 単位以上を修得した学生の修了を認定する。

A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力

(A-1) 「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる能力。

(A-2) 「工学倫理」および「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる能力。

B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢

(B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる能力。

C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力

(C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる能力。

(C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる能力。

(C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる能力。

D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力

(D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる能力。

(D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる能力。

E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢

(E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる能力。

(E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる能力。

本科・専攻科ともに卒業の認定に関する方針や「沼津工業高等専門学校学則」及び「沼津工業高等専門学校卒業成績評価並びに進級・卒業認定等に関する規則」の卒業・修了要件を踏まえ、卒業・修了を認定している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

[http://www.numazu-
ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy](http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	沼津工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH30.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH30.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/H30jigyohokokusho1.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kanjiikenH30.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和2年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/nendo-R2.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/chuukikeikaku-4th.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:学校ホームページ URL http://www.numazu-ct.ac.jp/college/evaluation

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:学校ホームページ URL http://www.numazu-ct.ac.jp/college/evaluation

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械工学科
教育研究上の目的 (公表方法: http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/policy)
(概要) 「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」を教育理念とし、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業に寄与することを教育目的とする。
卒業の認定に関する方針(公表方法: http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy)
(概要) 全課程を修了して 167 単位以上 (一般科目 75 単位以上、専門科目 82 単位以上) を修得し、以下の能力を身につけた学生の卒業を認定する。 A 技術と自然や社会との関わりや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力。 B 環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に関する課題に数学、自然科学及び情報技術の知識を適用できる能力。 C 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のうち、いずれかの専門的知識を理解できる能力、及び工学的課題を解決するため、必要な情報やデータをハードウェア、ソフトウェアにより収集し、整理できる能力。 D 自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を正しく用いて、報告できる能力、及び自己の研究等に関する英語の記述や論文を 7 割程度理解でき、自己の研究成果等の概要を英語でわかりやすくまとめることができる能力。 E 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力及び自己の研究に関連する文献を調査・選択し、講読できる能力。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy)
(概要) ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のカリキュラムを編成する。 A 技術と自然や社会との関わりや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力を身につけるため、1～3年次に人文・社会科学(社会)に関する科目で国立高等専門学校モデルコアカリキュラムの規定する到達レベル(以下「Level」という。) Level 2 (理解レベル) までを、4・5年次に Level 3 (適用レベル) までを身につける。 B 環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に関する課題に数学、自然科学及び情報技術の知識を適用できる能力を身につけるため、1～3年次に数学および自然科学(物理・化学)に関する科目で Level 2 (理解レベル) までを、4・5年次に Level 3 (適用レベル) までを身につける。 C 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のうち、いずれかの専門知識を理解できる能力を身につけるため、5年間で専門科目 82 単位以上を履修する。また、工学的課題を解決するために必要な情報やデータをハードウェア、ソフトウェアにより収集し、整理できる能力を身につけるため、5年次に卒業研究を履修する。 D 自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を正しく用いて、報告できる能力を身につけるため、4・5年次に人文・社会科学(国語)に関する科目で Level 3 (適用レベル) までを身につけ、5年次に卒業研究を履修する。また、自己の研究等に関する英語の記述や論文を 7 割程度理解でき、自己の研究成果等の概要を英語でわかりやすくまとめることができる能力を身につけるため、1～3年次に人文・社会科学(英語)に関する科目で Level 2 (理解レベル) までを、4・5年次に工業英語に関する科目で Level 3 (適用レベル) までを身につける。 E 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力を身につけるため、1～5年次に卒業研究を除く実験・実習・演習に関する科目 16 単位以上を履修する。また、自己の研究に関連する文献を講読できる能力を身につけるため、5年次に卒業研究を履修する。

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy)</p>
<p>(概要) 以下の意欲、および学力を有する者を、推薦選抜においては、調査書、推薦書、個人面接により、学力選抜においては、学力検査、調査書により確認し、受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を有する者。(知識・技能) 2. 科学技術を用いて社会に貢献する意欲の有る者。(主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度) 3. 科学技術の役割、技術者の責任を考えられる者。(思考力・判断力・表現力等の能力) 4. 他人の意見を聞き、自らの意見を言える者。(思考力・判断力・表現力等の能力)

<p>学部等名 電気電子工学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/policy)</p>
<p>(概要) 「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」を教育理念とし、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業に寄与することを教育目的とする。</p>

<p>卒業の認定に関する方針(公表方法：http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy)</p>
<p>(概要) 全課程を修了して167単位以上(一般科目75単位以上、専門科目82単位以上)を修得し、以下の能力を身につけた学生の卒業を認定する。</p> <p>A 技術と自然や社会との関わりや技術に関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力。</p> <p>B 環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に関する課題に数学、自然科学及び情報技術の知識を適用できる能力。</p> <p>C 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のうち、いずれかの専門知識を理解できる能力、及び工学的課題を解決するため、必要な情報やデータをハードウェア、ソフトウェアにより収集し、整理できる能力。</p> <p>D 自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を正しく用いて、報告できる能力、及び自己の研究等に関する英語の記述や論文を7割程度理解でき、自己の研究成果等の概要を英語でわかりやすくまとめることができる能力。</p> <p>E 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力及び自己の研究に関連する文献を調査・選択し、講読できる能力。</p>

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy)</p>
<p>(概要) ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のカリキュラムを編成する。</p> <p>A 技術と自然や社会との関わりや技術に関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力を身につけるため、1～3年次に人文・社会科学(社会)に関する科目で国立高等専門学校モデルコアカリキュラムの規定する到達レベル(以下「Level」という。)Level 2(理解レベル)までを、4・5年次にLevel 3(適用レベル)までを身につける。</p> <p>B 環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に関する課題に数学、自然科学及び情報技術の知識を適用できる能力を身につけるため、1～3年次に数学および自然科学(物理・化学)に関する科目でLevel 2(理解レベル)までを、4・5年次にLevel 3(適用レベル)までを身につける。</p> <p>C 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のうち、いずれかの専門知識を理解できる能力を身につけるため、5年間で専門科目82単位以上を履修する。また、工学的課題を解決するために必要な情報やデータをハードウェア、ソフトウェアにより収集し、整理できる能力を身につけるため、5年次に卒業研究を履修する。</p> <p>D 自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を正しく用いて、報告できる能力を身につけるため、4・5年次に人文・社会科学(国語)に関する科目でLevel 3(適用レベル)までを身につけ、5年次に卒業研究を履修する。また、自己の研究等に関する英語の記述や論文を7割程度理解でき、自己</p>

<p>の研究成果等の概要を英語でわかりやすくまとめることができる能力を身につけるため、1～3年次に人文・社会科学（英語）に関する科目でLevel 2（理解レベル）までを、4・5年次に工業英語に関する科目でLevel 3（適用レベル）までを身につける。</p> <p>E 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力を身につけるため、1～5年次に卒業研究を除く実験・実習・演習に関する科目16単位以上を履修する。また、自己の研究に関連する文献を講読できる能力を身につけるため、5年次に卒業研究を履修する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 （公表方法：http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy）</p>
<p>（概要） 以下の意欲、および学力を有する者を、推薦選抜においては、調査書、推薦書、個人面接により、学力選抜においては、学力検査、調査書により確認し、受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 工学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を有する者。（知識・技能） 2. 工学技術を用いて社会に貢献する意欲の有る者。（主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度） 3. 工学技術の役割、技術者の責任を考えられる者。（思考力・判断力・表現力等の能力） 4. 他人の意見を聞き、自らの意見を言える者。（思考力・判断力・表現力等の能力）

<p>学部等名 電子制御工学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/policy）</p>
<p>（概要） 「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」を教育理念とし、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業に寄与することを教育目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy）</p>
<p>（概要） 全課程を修了して167単位以上（一般科目75単位以上、専門科目82単位以上）を修得し、以下の能力を身につけた学生の卒業を認定する。</p> <p>A 技術と自然や社会との関わりや技術に関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力。</p> <p>B 環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に関する課題に数学、自然科学及び情報技術の知識を適用できる能力。</p> <p>C 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のうち、いずれかの専門的知識を理解できる能力、及び工学的課題を解決するため、必要な情報やデータをハードウェア、ソフトウェアにより収集し、整理できる能力。</p> <p>D 自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を正しく用いて、報告できる能力、及び自己の研究等に関する英語の記述や論文を7割程度理解でき、自己の研究成果等の概要を英語でわかりやすくまとめることができる能力。</p> <p>E 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力及び自己の研究に関連する文献を調査・選択し、講読できる能力。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy）</p>
<p>（概要） ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のカリキュラムを編成する。</p> <p>A 技術と自然や社会との関わりや技術に関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力を身につけるため、1～3年次に人文・社会科学（社会）に関する科目で国立高等専門学校モデルコアカリキュラムの規定する到達レベル（以下「Level」という。）Level 2（理解レベル）までを、4・5年次にLevel 3（適用レベル）までを身につける。</p> <p>B 環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に関する課題に数学、自然科学及び情報技術の知識を適用できる能力を身につけるため、1～3年次に数学および自然科学（物理・化学）に関する科目でLevel 2（理解レベル）までを、4・5年次にLevel 3（適用レベル）までを身につける。</p> <p>C 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のうち、いずれかの専門知識を理解で</p>

<p>きる能力を身につけるため、5年間で専門科目82単位以上を履修する。また、工学的課題を解決するために必要な情報やデータをハードウェア、ソフトウェアにより収集し、整理できる能力を身につけるため、5年次に卒業研究を履修する。</p> <p>D 自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を正しく用いて、報告できる能力を身につけるため、4・5年次に人文・社会科学(国語)に関する科目でLevel 3(適用レベル)までを身につけ、5年次に卒業研究を履修する。また、自己の研究等に関する英語の記述や論文を7割程度理解でき、自己の研究成果等の概要を英語でわかりやすくまとめることができる能力を身につけるため、1～3年次に人文・社会科学(英語)に関する科目でLevel 2(理解レベル)までを、4・5年次に工業英語に関する科目でLevel 3(適用レベル)までを身につける。</p> <p>E 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力を身につけるため、1～5年次に卒業研究を除く実験・実習・演習に関する科目16単位以上を履修する。また、自己の研究に関連する文献を講読できる能力を身につけるため、5年次に卒業研究を履修する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy)</p>
<p>(概要)</p> <p>以下の意欲、および学力を有する者を、推薦選抜においては、調査書、推薦書、個人面接により、学力選抜においては、学力検査、調査書により確認し、受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を有する者。(知識・技能) 2. 科学技術を用いて社会に貢献する意欲の有る者。(主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度) 3. 科学技術の役割、技術者の責任を考えられる者。(思考力・判断力・表現力等の能力) 4. 他人の意見を聞き、自らの意見を言える者。(思考力・判断力・表現力等の能力)

<p>学部等名 制御情報工学科</p>
<p>教育研究上の目的(公表方法：http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/policy)</p>
<p>(概要)</p> <p>「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」を教育理念とし、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業に寄与することを教育目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針(公表方法：http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy)</p>
<p>(概要)</p> <p>全課程を修了して167単位以上(一般科目75単位以上、専門科目82単位以上)を修得し、以下の能力を身につけた学生の卒業を認定する。</p> <p>A 技術と自然や社会との関わりや技術に関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力。</p> <p>B 環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に関する課題に数学、自然科学及び情報技術の知識を適用できる能力。</p> <p>C 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のうち、いずれかの専門的知識を理解できる能力、及び工学的課題を解決するため、必要な情報やデータをハードウェア、ソフトウェアにより収集し、整理できる能力。</p> <p>D 自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を正しく用いて、報告できる能力、及び自己の研究等に関する英語の記述や論文を7割程度理解でき、自己の研究成果等の概要を英語でわかりやすくまとめることができる能力。</p> <p>E 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力及び自己の研究に関連する文献を調査・選択し、講読できる能力。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy)</p>

<p>(概要)</p> <p>ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のカリキュラムを編成する。</p> <p>A 技術と自然や社会との関わりや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力を身につけるため、1～3年次に人文・社会科学(社会)に関する科目で国立高等専門学校モデルコアカリキュラムの規定する到達レベル(以下「Level」という。)Level 2(理解レベル)までを、4・5年次にLevel 3(適用レベル)までを身につける。</p> <p>B 環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に関する課題に数学、自然科学及び情報技術の知識を適用できる能力を身につけるため、1～3年次に数学および自然科学(物理・化学)に関する科目でLevel 2(理解レベル)までを、4・5年次にLevel 3(適用レベル)までを身につける。</p> <p>C 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のうち、いずれかの専門知識を理解できる能力を身につけるため、5年間で専門科目82単位以上を履修する。また、工学的課題を解決するために必要な情報やデータをハードウェア、ソフトウェアにより収集し、整理できる能力を身につけるため、5年次に卒業研究を履修する。</p> <p>D 自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を正しく用いて、報告できる能力を身につけるため、4・5年次に人文・社会科学(国語)に関する科目でLevel 3(適用レベル)までを身につけ、5年次に卒業研究を履修する。また、自己の研究等に関する英語の記述や論文を7割程度理解でき、自己の研究成果等の概要を英語でわかりやすくまとめることができる能力を身につけるため、1～3年次に人文・社会科学(英語)に関する科目でLevel 2(理解レベル)までを、4・5年次に工業英語に関する科目でLevel 3(適用レベル)までを身につける。</p> <p>E 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力を身につけるため、1～5年次に卒業研究を除く実験・実習・演習に関する科目16単位以上を履修する。また、自己の研究に関連する文献を講読できる能力を身につけるため、5年次に卒業研究を履修する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy)</p>
<p>(概要)</p> <p>以下の意欲、および学力を有する者を、推薦選抜においては、調査書、推薦書、個人面接により、学力選抜においては、学力検査、調査書により確認し、受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を有する者。(知識・技能) 2. 科学技術を用いて社会に貢献する意欲の有る者。(主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度) 3. 科学技術の役割、技術者の責任を考えられる者。(思考力・判断力・表現力等の能力) 4. 他人の意見を聞き、自らの意見を言える者。(思考力・判断力・表現力等の能力)
<p>学部等名 物質工学科</p>
<p>教育研究上の目的(公表方法：http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/policy)</p>
<p>(概要)</p> <p>「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」を教育理念とし、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業に寄与することを教育目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針(公表方法：http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy)</p>
<p>(概要)</p> <p>全課程を修了して167単位以上(一般科目75単位以上、専門科目82単位以上)を修得し、以下の能力を身につけた学生の卒業を認定する。</p> <p>A 技術と自然や社会との関わりや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力。</p> <p>B 環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に関する課題に数学、自然科学及び情報技術の知識を適用できる能力。</p> <p>C 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のうち、いずれかの専門的知識を理解できる能力、及び工学的課題を解決するため、必要な情報やデータをハードウェア、ソフトウェアにより収集し、整理できる能力。</p> <p>D 自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を正しく用いて、報告できる能力、及び自己の研究等に関する英語の記述や論文を7割程度理解でき、自己の研究成果等の概要を英語でわかりやすくまとめることができる能力を身につけるため、1～3年次に人文・社会科学(英語)に関する科目でLevel 2(理解レベル)までを、4・5年次に工業英語に関する科目でLevel 3(適用レベル)までを身につける。</p>

とめることができる能力。 E 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力及び自己の研究に関連する文献を調査・選択し、講読できる能力。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy)
(概要) ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のカリキュラムを編成する。 A 技術と自然や社会との関わりや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力を身につけるため、1～3年次に人文・社会科学(社会)に関する科目で国立高等専門学校モデルコアカリキュラムの規定する到達レベル(以下「Level」という。)Level 2(理解レベル)までを、4・5年次にLevel 3(適用レベル)までを身につける。 B 環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に関する課題に数学、自然科学及び情報技術の知識を適用できる能力を身につけるため、1～3年次に数学および自然科学(物理・化学)に関する科目でLevel 2(理解レベル)までを、4・5年次にLevel 3(適用レベル)までを身につける。 C 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のうち、いずれかの専門知識を理解できる能力を身につけるため、5年間で専門科目82単位以上を履修する。また、工学的課題を解決するために必要な情報やデータをハードウェア、ソフトウェアにより収集し、整理できる能力を身につけるため、5年次に卒業研究を履修する。 D 自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を正しく用いて、報告できる能力を身につけるため、4・5年次に人文・社会科学(国語)に関する科目でLevel 3(適用レベル)までを身につけ、5年次に卒業研究を履修する。また、自己の研究等に関する英語の記述や論文を7割程度理解でき、自己の研究成果等の概要を英語でわかりやすくまとめることができる能力を身につけるため、1～3年次に人文・社会科学(英語)に関する科目でLevel 2(理解レベル)までを、4・5年次に工業英語に関する科目でLevel 3(適用レベル)までを身につける。 E 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力を身につけるため、1～5年次に卒業研究を除く実験・実習・演習に関する科目16単位以上を履修する。また、自己の研究に関連する文献を講読できる能力を身につけるため、5年次に卒業研究を履修する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy)
(概要) 以下の意欲、および学力を有する者を、推薦選抜においては、調査書、推薦書、個人面接により、学力選抜においては、学力検査、調査書により確認し、受け入れる。 1. 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を有する者。(知識・技能) 2. 科学技術を用いて社会に貢献する意欲の有る者。(主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度) 3. 科学技術の役割、技術者の責任を考えられる者。(思考力・判断力・表現力等の能力) 4. 他人の意見を聞き、自らの意見を言える者。(思考力・判断力・表現力等の能力)

学部等名 専攻科 総合システム工学専攻
教育研究上の目的(公表方法： http://www.numazu-ct.ac.jp/advanced/multidisciplinary)
(概要) 高等専門学校の教育における成果をふまえ、研究指導を通じた工学に関する深い専門性をもとに、創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するとともに、産業社会との学術的な協力を基礎に教育研究を行い、もって、地域社会の産業と文化の進展に寄与することを目的としている。
卒業の認定に関する方針(公表方法： http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy)

(概要)

以下の能力を身につけ、専攻科に2年以上在学し、所定の単位修得条件の下で合計62単位以上を修得した学生の修了を認定する。

A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力

(A-1) 「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる能力。

(A-2) 「工学倫理」および「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる能力。

B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢

(B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる能力。

C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力

(C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる能力。

(C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる能力。

(C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる能力。

D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力

(D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる能力。

(D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる能力。

E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢

(E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる能力。

(E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる能力。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy>)

(概要)

ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のカリキュラムを編成する。

1. 教育課程を一般科目、コース専門科目、専門共通科目、専門展開科目によって編成する。

2. 一般科目を必修科目（工学倫理、語学系）と選択科目（人文社会科学系）に分類し、必修8単位のほか、選択2単位以上を修得する。

3. コース専門科目は選択科目（環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系）のみとし、所属コースのコース専門科目を10単位以上修得する。

4. 専門共通科目を必修科目（知的財産）と選択科目（数学、自然科学系）に分類し、必修2単位のほか、選択6単位以上を修得する。

5. 専門展開科目を必修科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ、専攻科実験、学外実習、実践工学演習）と選択科目に分類し、必修24単位のほか、選択10単位以上を修得する。

6. 設計・システム系、情報論理系、材料・バイオ系、力学系、および社会技術系の5科目群系に科目を分類した場合、合計6科目以上、各群系から1科目以上を修得する。

7. ディプロマ・ポリシーに示される各能力に対応する科目を1科目以上修得する。

上記7に関し、各能力と授業科目とは以下のように対応する。

A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力

(A-1) 「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる能力を身につけるため、一般科目（人文社会科学系）、コース専門科目（環境エネルギー工学系）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。

(A-2) 「工学倫理」および「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる能力を身につけるため、一般科目（工学倫理）、コース専門科目（環境エネルギー工学系、医療福祉機器開発工学系）、専門共通科目（知的財産）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。

<p>B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える能力</p> <p>(B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる能力を身につけるため、専門共通科目(数学、自然科学系)、コース専門科目(新機能材料工学系)、専門展開科目(選択)でLevel 4(分析レベル)までを身につける。</p> <p>C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力</p> <p>(C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる能力を身につけるため、コース専門科目(環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系)、専門展開科目(専攻科研究Ⅰ～Ⅲ、選択科目)でLevel 4(分析レベル)までを身につける。</p> <p>(C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる能力を身につけるため、専門展開科目(専攻科研究Ⅰ～Ⅲ)でLevel 4(分析レベル)までを身につける。</p> <p>(C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる能力を身につけるため、専門展開科目(選択)、コース専門科目(環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系)でLevel 4(分析レベル)までを身につける。</p> <p>D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力</p> <p>(D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる能力を身につけるため、専門展開科目(専攻科研究Ⅰ～Ⅲ)でLevel 4(分析レベル)までを身につける。</p> <p>(D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる能力を身につけるため、一般科目(語学系)、専門展開科目(専攻科研究Ⅲ)でLevel 4(分析レベル)までを身につける。</p> <p>E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢</p> <p>(E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる能力を身につけるため、専門展開科目(学外実習、実践工学演習、専攻科実験)でLevel 4(分析レベル)までを身につける。</p> <p>(E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる能力を身につけるため、専門展開科目(専攻科研究Ⅰ～Ⅲ)でLevel 4(分析レベル)までを身につける。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy)</p>
<p>(概要)</p> <p>以下の意欲、学力及び経験を有する者を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 広い視野と深い専門性を身につけて、社会の発展、公衆の福祉に寄与する意欲を有する。 2. 工学教育を受けるために必要な数学、自然科学及び英語の学力を有する。 3. 基礎的な工学について、一定の指導と訓練を受け、実践した経験を有する。 <p>これらをこれまでの学習成果、自己申告書、推薦書、試験、面接などによって確認する。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/organization</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
教養科	—	8人	12人	1人	2人	0人	23人
機械工学科	—	5人	5人	1人	1人	0人	12人
電気電子工学科	—	5人	6人	0人	0人	0人	11人
電子制御工学科	—	5人	4人	0人	1人	0人	10人
制御情報工学科	—	5人	5人	0人	0人	0人	10人
物質工学科	—	6人	3人	0人	2人	0人	11人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			34人				34人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://research.kosen-k.go.jp/researcher-list/?page=1&limit=30&affiliationId=6600000000					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械工学科	40人	40人	100%	200人	206人	103%	若干名	0人
電気電子工学科	40人	40人	100%	200人	206人	103%	若干名	0人
電子制御工学科	40人	41人	103%	200人	210人	105%	若干名	0人
制御情報工学科	40人	40人	100%	200人	207人	104%	若干名	0人
物質工学科	40人	41人	103%	200人	207人	104%	若干名	0人
専攻科	24人	29人	121%	48人	54人	113%	人	人
合計	224人	231人	103%	1,048人	1,090人	104%	若干名	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	36人 (100%)	12人 (33.3%)	23人 (63.9%)	1人 (2.8%)
電気電子工学科	37人 (100%)	14人 (37.8%)	20人 (54.1%)	3人 (8.1%)
電子制御工学科	38人 (100%)	20人 (52.6%)	15人 (39.5%)	3人 (7.9%)
制御情報工学科	44人 (100%)	19人 (43.2%)	22人 (50.0%)	3人 (6.8%)
物質工学科	39人 (100%)	20人 (51.3%)	19人 (48.7%)	0人 (0.0%)
専攻科	27人 (100%)	10人 (37.0%)	17人 (63.0%)	0人 (0.0%)
合計	221人 (100%)	95人 (43.0%)	116人 (52.5%)	10人 (4.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
<p>(本科) 東北大学、筑波大学、新潟大学、東京工業大学、東京農工大学、横浜国立大学、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、九州大学、沼津工業高等専門学校専攻科東海旅客鉄道株式会社、ANA ベースメンテナンステクニクス株式会社、旭化成株式会社、株式会社明電舎、浜松ホトニクス株式会社、株式会社ヤクルト本社</p> <p>(専攻科) 筑波大学大学院、東京医科歯科大学大学院、東京工業大学大学院、名古屋大学大学院、キヤノン電子株式会社、富士フイルムメディカル株式会社</p>				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
機械工学科	43人 (100.0%)	33人 (76.7%)	7人 (16.3%)	3人 (7.0%)	0人 (0.0%)
電気電子工学科	42人 (100.0%)	34人 (81.0%)	5人 (11.9%)	3人 (7.1%)	0人 (0.0%)
電子制御工学科	43人 (100.0%)	35人 (81.2%)	7人 (16.3%)	1人 (2.3%)	0人 (0.0%)
制御情報工学科	43人 (100.0%)	39人 (90.7%)	3人 (7.0%)	1人 (2.3%)	0人 (0.0%)
物質工学科	42人 (100.0%)	35人 (83.3%)	2人 (4.8%)	5人 (12.0%)	0人 (0.0%)
専攻科	29人 (100.0%)	26人 (89.7%)	1人 (3.4%)	2人 (6.9%)	0人 (0.0%)
合計	242人 (100.0%)	202人 (83.5%)	25人 (10.3%)	15人 (6.2%)	0人 (0.0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>国立高専統一の Web シラバスシステムに基づき、統一の様式に則り、授業形態・到達目標・ルーブリック（成績評価基準表）・授業科目の概要や内容、方法、注意点・授業計画・評価割合を記載している。例年、前年 1 2 月～翌年 1 月にかけてシラバスを作成しており、作成完了後、年度初めの 4 月 1 日に国立高専が統一してインターネットにより公開している。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>「沼津工業高等専門学校学則」、「沼津工業高等専門学校学業成績評価並びに進級・卒業認定等に関する規則」及び「沼津工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則」に則り、授業計画（シラバス）にてあらかじめ周知されている評価割合に基づき、厳格かつ適正に単位授与または履修認定を実施している。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械工学科	167 単位	有	単位
	電気電子工学科	167 単位	有	単位
	電子制御工学科	167 単位	有	単位
	制御情報工学科	167 単位	有	単位
	物質工学科	167 単位	有	単位
	専攻科 総合システム工学専攻	62 単位	無	26 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法 : ホームページ内に施設マップをアップ。 http://www.numazu-ct.ac.jp/college/map</p>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	機械工学科	234,600 円	84,600 円	77,400 円～ 116,100 円	(内訳) 教科書代 15,000～35,000 円 実習服等物品代 7,500～25,000 円 教育後援会入会金 15,000 円 教育後援会費 22,000 円 学生会入会金 1,000 円 学生会費 5,000 円 寄宿料 8,400～9,600 円 (寮生のみ) 寮生会入会金 500 円 (寮生のみ) 寮生会費 3,000 円 (寮生のみ)
	電気電子工学科				
	電子制御工学科				
	制御情報工学科				
	物質工学科				
	専攻科 総合システム工学専攻			35,000 円～ 64,100 円	(内訳) 教科書代 20,000 円～30,000 円 教育後援会入会金 6,000 円 (沼津高専 出身者以外) 教育後援会費 15,000 円 寄宿料 8,400～9,600 円 (寮生のみ) 寮生会入会金 500 円 (沼津高専出身者 以外で新入寮生のみ) 寮生会費 3,000 円 (寮生のみ)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学内に「学習サポートセンター」を設置し、授業でわからなかったところを相談教員に気軽に質問したり、学生同士で教え合いながら課題を解決したりできる場としている。 また、学生が授業でわからないことや学生生活を送る上での相談などを受けるために、教員が在室し学生からの相談を受けられる時間帯 (オフィスアワー) を全教員が定めている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 【キャリア教育・就職指導】 ・「キャリア支援センター」を中心に低学年からの一貫したキャリア教育を実施している。 ・静岡新聞社主催の、本校学生対象の「就職祭」に参加している (令和元年度は新型コロナウイルス感染所の影響により中止)。 ・各学科の就職担当教員・インターンシップ担当教員を中心に、企業情報・就職情報等の提供を充実させ、高い就職率を維持している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 新入生保護者対象のカウンセラーによる講演会を実施している。また、前期には全学年を対象に「高専生活に関するアンケート」を実施し、希死念慮等のリスクを把握し、カウンセリングや外部医療機関につなげるなど適切な対応を取っている。 5年生を対象にメンタルヘルスの講演会を実施している。

1年生には性教育、2年生には薬物乱用等に関する特別講演を行うとともに、後期には全学年を対象に「学生生活アンケート」を実施し、学生を取り巻く諸問題の兆候の早期把握に務めている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<http://www.numazu-ct.ac.jp/college/disclosure/education>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	
設置者名	

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		人	人	人
内 訳	第Ⅰ区分	人	人	
	第Ⅱ区分	人	人	
	第Ⅲ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	人
----	---

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	人	人	人
計	人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	人
3月以上の停学	人
年間計	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	人
訓告	人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	人	人
GPA等が下位4分の1	人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	人	人
計	人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。